



園芸作物栽培に関する
これからの対策
と
Q&A

野菜栽培に最適な気温経過と想定されます。しかし、雑草生育や害虫発生にも好都合といえるので、早めの対応が必要となってきます。

◎圃場づくりの留意点

丹南地域は粘土質の圃場が多く、春先の耕起には苦勞することが少なくありません。耕起作業は数日好天の続いた時期を見計らって、細かく砕かれた状態に仕上げましょう。耕起が思うように行かなくて「口土が目立つ状態になってしまった時は、苗の植え付けに際して細かな土を間土として根周りに盛って活着を促進しましょう。一方水分が多すぎて土が練られた状態になってしまった場合、野菜の根が入りにくくなるので天候を見て再度耕起しましょう。また、土壌害虫が増えてきておりますのでダイアジノン粒剤※等の土壌混和を忘れないようにしてください。

◎植え付けにあたって

植え付けは基本的に暖かな日の午前中に行うようにします。生育初期の害虫対策としてスタークル粒剤※かモスピラン粒剤※などを植え穴処理します。

植え付けは鉢土の面と畝面の高さが同じくらいとして植え付けます。ただし、鉢土面が丸だし状態では根周りの土が乾燥しやすくなるので周りの土で覆います。このとき接ぎ木苗では接ぎ木



近年多発しているウリハムシの食害

◎気象予報と当面の農作業

今年も昨年ほどではありませんが温暖な気候となっております。平均気温が15℃に達するのは4月23日前後と思われるので、このころからツツジも咲き始めますので、苗木の植え付け適期となっております。

気象庁の3ヶ月予報では気温はやや高く、降水量は平年並みとしており、

◎5月の種まき・植え付け

ホウレンソウ	時期に合った品種の選択が必要で適応播種期を確認する。
ネギ	5月中旬以降の播種だと年内収穫は難しくなる。
スイートコーン	5月後半以降になると良質なものがとれにくくなる。
インゲンマメ	基本的に5月中旬まで。つるあり種は長期間収穫できる。
エダマメ	需要期に間に合わせるなら播種は原則5月中旬まで。
ダイコン	多くの品種は3~4月撒きです。品種を選べば5月始めまで可能。
ニンジン	排水性の悪い畑では裂根が発生しやすい。発芽まで時間がかかる。
ショウガ	5月上旬に植える。排水良く半日陰の場所を選ぶ。
サトイモ・自然薯	遅くとも5月中頃までには植えましょう。
サツマイモ	5月一杯可能ですが、下旬植えてはやや収量が落ちる。

◎越冬野菜の管理

ジャガイモは5月始めには茎すべり2~3回目の土寄せを行います。追肥の必要性については生育を見て判断しましょう。葉の色が濃すぎる場合は病気にやられやすくなるのでむしろ予防除菌に努めましょう。

タマネギの肥大が進んでいきますが追肥をする時期ではありません。干天が続く場合は水遣りを積極的にいきましょう。また、サビ病やべと病が出やすい時期となつてきますので予防としてジマンダイセン水和剤などに展着剤を加用して散布しておきましょう。近年ネギアザミウマやハモグリバエの発生も目立ってきております。加害が始まったラシエイエース水溶剤(収穫21日前まで)などで初期防除に努めましょう。

昨年は4月下旬からニンニクに一気にサビ病が蔓延しました。サビ病は蔓延が早く防除の難しい病気です。圃場に湿り気が多い場合、肥料が効き



ニンニクのサビ病



パレishoの凍害

部分が土で埋まらないように注意します。またウリ科野菜も茎周りに土を寄せ過ぎないように注意します。植え付け後は圃場になじませるため灌水をしますが冷たすぎる水はやらないようにします。なお、混み過ぎると病害虫に侵されやすくなるので植え込み過ぎないように注意しましょう。

◎植え付け後の管理

☆初期生育をスムーズにするのが大切です。ポイントの一つに植え付けられた苗がフラフラしないようにすることです。春は風が結構強いので特に留意しましょう。

①スイカやウリ類などツルものは、生育初期は風除けをし、ツルが伸びてきたら敷きワラを早めに行い株の安定を図る。ただし、強風でワラがひっくりかえされないようワラを縄などで押さえておく。

②トマト、キュウリなど立ち栽培するものは早めに支柱をして結わいつておく。

③ブロッコリーやスイートコーンなどは生育に応じて適宜土寄せを行う。☆果菜類の整枝は分かりづらいものですが、大雑把に言えば

①ツルものは芯摘みして4~6本の子ツルを伸ばします。

②立ち栽培の果菜は1本仕立てか元気の良い脇芽1本と2本仕立てにします。

③インゲン、エンドウなどは後から出てきた細いツルを掻き取って2~4本を残してやりませ。

混み合ってくれば適当に孫ツルを間引いて風通しを良くします。

④ナス、ピーマンは面倒ですが、伸ばし続ける枝を3~4本決めてそれ以外の枝は果実を収穫するときに枝ごと切り取るようにしてください。

※適用作物を確認する



ブロッコリーのボトニング。寒い時期に無理して植えると株が小さいうちに花蕾が出来てしまう。

過ぎてくる場合、または肥料不足で生育が弱い場合に激発しやすくなります。近隣の圃場で見かけ始めたら予防としてダコニールかアミスターに展着剤を加用して散布しておきます。



成虫



幼虫

豆知識



ウリハムシの生態と防除

ウリハムシの成虫はキュウリやメロン、スイカなどウリ科野菜の葉を好んで食害する。加害時期は4月~11月と長期に亘る。成虫は雑草地で越冬し、5月~6月にかけて植えられたばかりの苗に飛来し食害し圃場で産卵する。孵化した幼虫はウリ科野菜の根や茎を食い荒らし枯死に至る場合もある。7月~8月に新成虫が現れる。

飛来性の害虫なので防除は容易ではない。圃場での孵化防止として作畝のときにダイアジノン粒剤を土壌混和する。飛来が見られ始めたらアディオソ乳剤、スタークル顆粒水溶剤、モスピラン水溶剤などを散布する。

耕種の防除法としてシルバーマルチを敷設したり、株元にアルミホイルを敷くと飛来は少なくなるという。また、ネギ類の臭いを嫌うとされネギやタマネギの茎葉を敷いても忌避効果があるとされている。最も確実なのは動きの鈍い早朝に捕殺することである。

大 門 優
園芸アドバイザー
お問合せ先
東部ふれあいセンター内営農課
TEL.51-8004
TEL.070-1296-1499